



14 Jahre Kizuna-in-Berlin e.V.

Kurzer Bericht über die Hilfsaktionen von Kizuna-in-Berlin e.V. nach der Dreifach-Katastrophe von Erdbeben, Tsunami und Reaktorhavarie im März 2011 in Nordostjapan

「絆・ベルリン」の14年

NPO「絆・ベルリン」による
東日本大震災支援活動
についての概括的な報告



Autor: Dr. Frank Brose (Vorsitzender von Kizuna in Berlin e.V.)

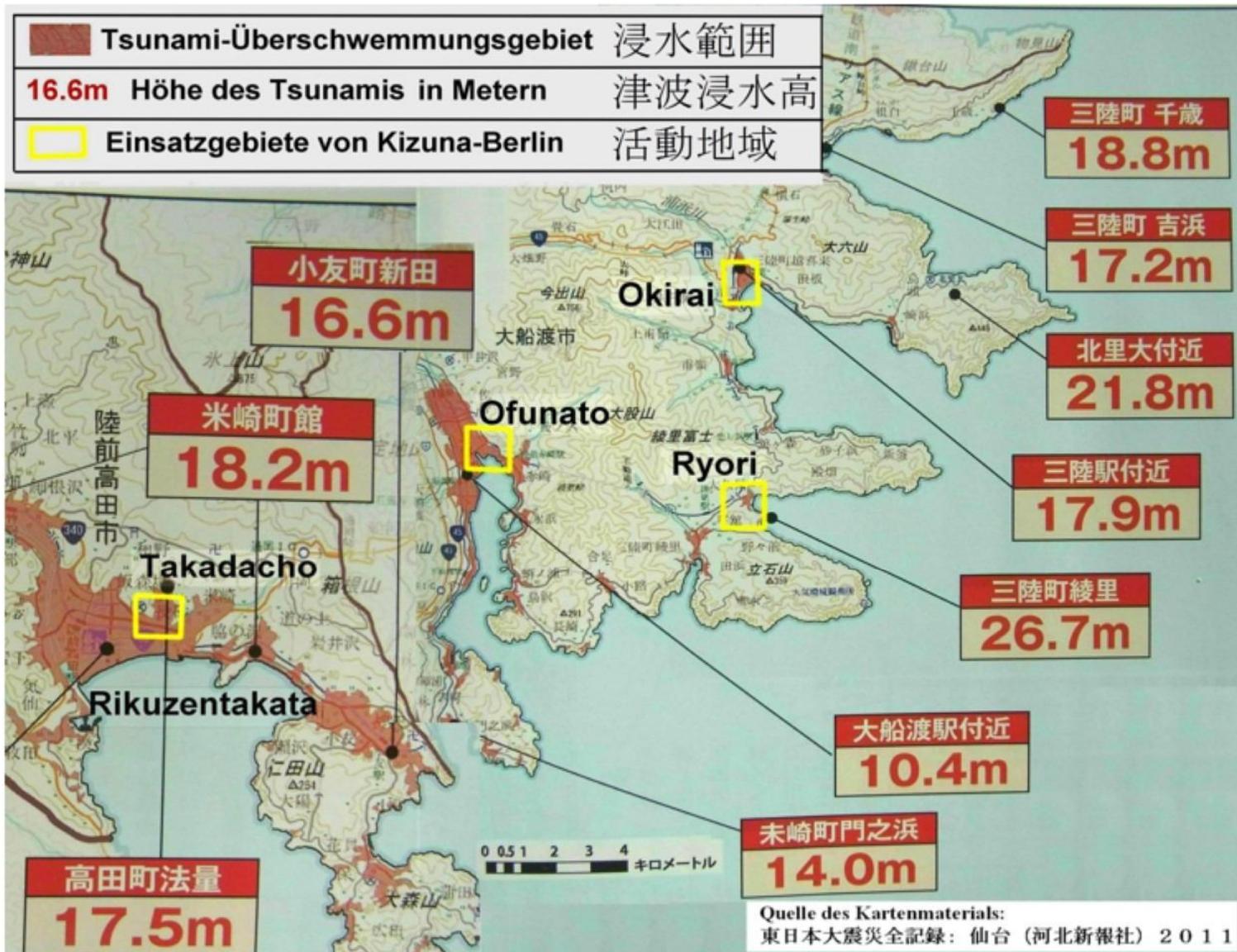
フランク・ブローゼ(絆ベルリン会長)



Kizuna in Berlin e.V.

「絆・ベルリン」

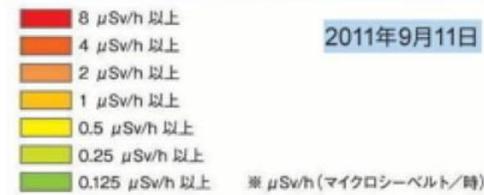
ベルリンに在住するドイツ人、日本人が組織したグループです。2011年の3月11日の大震災の後、何らかの形で被災地の皆さんに手を差し伸べたいと思い、5月にNPO「絆・ベルリン」を設立しました。2011年の秋に第1次ボランティア活動を岩手県で行いました。それ以来、毎年東北に行き、支援を続けています。



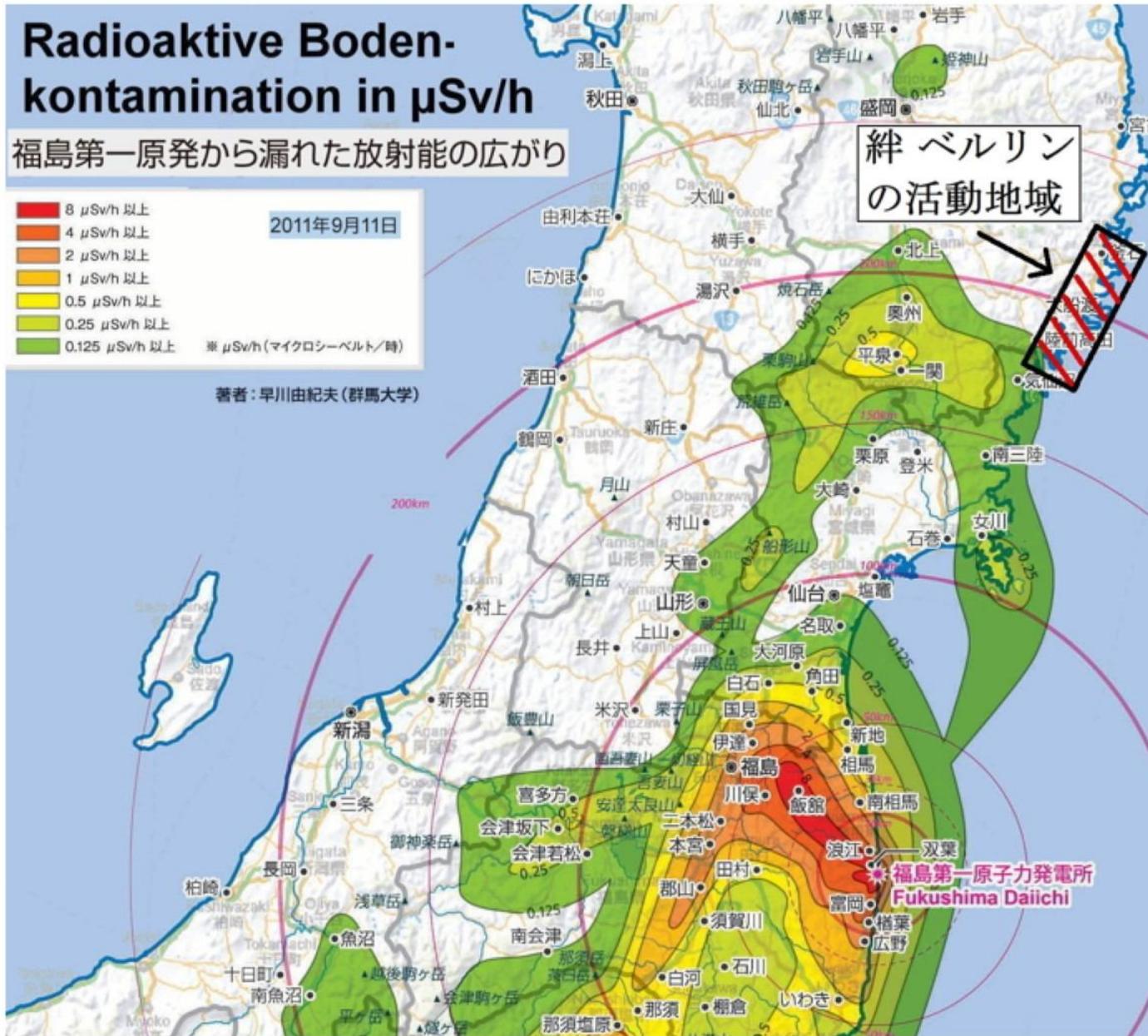
我々は2011年9月に、岩手県の三陸地域に赴きました。このフィヨルド式の沿岸地域は高さ27メートルもの津波に襲われ、内陸まで甚大な被害を受けました。

Radioactive Bodenkontamination in $\mu\text{Sv/h}$

福島第一原発から漏れた放射能の広がり



著者: 早川由紀夫 (群馬大学)



我々のグループには若いドイツ人も参加していましたから、放射能の汚染地域から離れたところ選ばれました。

2011年～2013年のボランティア活動：泥で詰まった側溝と下水道の掃除



最初は遠野市、その後は大船渡市に滞在し、現地のボランティア・センターと協力して支援活動を行いました。具体的には津波によって破壊された家々および瓦礫の片付け、そして排水側溝の泥上げなどをしました。



現地で活躍するNPOや地方自治体のボランティア組織のニーズと能力に応じて、業務はボランティアセンターで行われました。当初、私たちは安全上の理由から片田舎の体育館にいたが、後に海岸沿いの村などに出向いた。(例)大船渡市にある福祉の里センター。

被災地の住民と救援組織は、継続的な支援が実際に彼らの役に立ち、また彼ら自身の仕事を継続する力を与えてくれることを何度も何度も繰り返し告げてくれました。

それゆえ最初の2011年の実施後、必要かつ適切に思える限り、毎年1~2件のボランティア派遣の追加を行う予定です。



幼稚園、学校、老人ホーム、市役所の訪問



さらに被害地域の学校、幼稚園、老人ホーム、仮設住宅などを訪問し、住民の方々と交流しました。
自治体の市長や町長も訪ね、復興状況などについてレクチャーを受けました。
市民の皆様やボランティア・センターの方々から我々のように毎年2回も支援活動にドイツから参加することは、被災地の皆様には大きな励みになると感謝されました。今まで合計6回このような活動を行いました。

大船渡にある長洞仮設住宅への援助



大船渡市最大の仮設住宅の皆さんとは、2011年から2018年まで密接な交流を行き、コンサートや菜園作りもしました。仮設住宅の子供達には毎年ベルリンからクリスマスのプレゼントを送りました。2018年にその仮設住宅は解散しました。

津波で破壊された大船渡の赤崎小学校への援助



大船渡市の赤崎小学校には色々な目的のための寄付をすると同時に、ベルリンの小学校の生徒からの絵葉書を届けたりもしました。

2013年～2015年のボランティア活動: 綿植え(土壌の脱塩)、田植え、掃除の仕事



沿岸地域の瓦礫などの片付け終了後は、海岸や野球場の清掃整頓、木綿の苗木植えや田植えなどもしました。さらに漁業組合の仲介で漁師の網の手入れ、牡蠣の分別もしました。

持続可能な復興プロジェクトのための財政支援パートナーの仲介



大槌: 「みらい工房」

(完成: 2014年10月)

陸前高田・上長部: 「ベルリン・ハウス」

(完成: 2012年12月)



ベルリンからの復興のための持続的な支援を具体的かつ迅速に行うのに、日常生活の最も多様な分野での大災害の影響を知ること当初から重要でした。これまでのところ、我々は日本のパートナーに、財務的実現を可能にしたドイツのパートナーとの2つの重要な再建プロジェクトを提供することができました。

陸前高田・上長部: ベルリン・ハウス



一つ目のプロジェクトは陸前高田の近くにある上長部に建てられたベルリン・ハウスです。上長部は津波で甚大な被害を受けました。近くにある水産加工工場が破壊されました。800トンもの冷凍水産物が広範囲に散らばりました。春から夏まで、腐ってしまった魚はものすごい悪臭を発生し、数え切れない小蠅が飛んでいました。6ヶ月間、一万人ものボランティアはシビアな条件で長部地区を清掃しました。

再建の第一歩として、津波で壊された公民館をどうしても再建したいという願いを2011年の秋に地元の方から聞きました。早速ベルリンの独日協会にお願いしたところ、10万ユーロの浄財が建設資金として提供されました。



プロジェクトリーダーは、遠野・まごころネットでした。エコロジカルな建築様式をとったコミュニティセンターの建築家は20年以上日本に住んでいるドイツ人のゲーチョさんでした。絆・メンバーなので、無給で働き、3万ユーロの現物寄付(建築資材、ストーブなど)を募りました。



Berlin-Haus in Kamiosabe

陸前高田・上長部: ベルリン・ハウス

04.2012: Erster Spatenstich 鍬入れ式

06.2012: Richtfest 棟上げ式

12.2012: Einweihungsfeier 竣工式



Fertigstellung in nur 9 Monaten

工事期間はたったの9ヶ月でした。

2012年の春に鍬入れ式が行われました。同年夏に棟上げ式が行われました。
2012年の12月には早くも竣工式が行われました。工事期間はたったの9ヶ月でした。

ベルリン・ハウスは2013年以来上長部の社会生活の中心のなところになっています。
ここでいろいろな住民の活動や催し物が行われています。



ベルリン・ハウスは地域の中心のな施設として使われています。健康促進コース、裁縫コース、
伝統行事のための集会などに使われています。

絆・ベルリンが2013年と2014年にベルリン・ハウスで音楽会を催しました。



絆・ベルリンは定期的に訪れ、これまでに2回のコンサートをし、
住民の方々と一緒に日本とドイツの歌を歌いました。_

2015年にベルリン・ハウスは地域の大きな行事の開催場所となりました。



4年毎に開かれる月山神社の歴史的な行列が行われたのです。

ベルリン・ハウスは「大名行列」の出発点でした。



「大名行列」がベルリン・ハウスから月山神社まで歩きました。

二つ目のプロジェクトは、「みらい工房」です（右の写真）。この工房は障害者の方々に技能を教えるところです。大槌町の「地域交流助け合いセンター」の隣に2014年に完成しました（左の写真）。



2012年にこのプロジェクトへの抱負を聞き、ロベルト・ボッシュ財団に財政支援をお願いし、20万ユーロの助成を頂きました。

大槌みらい工房の落成式



2014年の10月に工房は完成しました。



現在10名の障害者の方が作業に従事しています。

植樹運動

海岸沿いの津波は、町や村を破壊しただけでなく、農業や林業を損ないました。この事を踏まえて、絆では大内近郊の植林事業に参画し、上長部の近くにリンゴ果樹園を植樹したほか、野生生物保護区の建設に経済的に参加しました。



リンゴ園の植樹は、ルターのモットーに基づいています。「もしも世界が明日暗がりとなる事を知っていれば、私は今日リンゴの木を植えます。」2011年3月の災害の直後、将来的に再建された景観となるであろう荒廃した場所に未来への希望の徴として、リンゴの木を植えるという考えを私たちは思いつきました。それと同時に、ベルリンの壁が崩れた後に植えられた多くの日本人より寄付された桜の事を、壁の崩壊を経験したベルリン人として、統一の喜びの徴として考えるようになりました。

復興の象徴として、ベルリン・ハウスの近くにリンゴの果樹園を作りました。



2013年にはベルリン・ハウスの近くにリンゴの苗木を植えました。現在はすでに2メートル以上に育ち、実もなっています。



Wildschutzzaun-Projekt in Kamiosabe

(陸前高田-上長部の電気柵セット・プロジェクト)

被災地特有では鳥獣害のことが大問題になっています。災害以後は人口が減ったので、動物が大胆になってきたそうです。山の獣から若木や耕作地の苗を守るために電気柵を設けましたが、4000ユーロの資金は絆・ベルリンが提供しました。

ードイツの黒い森から日本の白い森へー
絆・ベルリン

「絆森プロジェクト」

郷土芸能のたてがみは“かんながら”と呼ばれ
“ドロの木”から作られます。



Doro-no-ki-Projekt

内陸では大槌町の伝統行事・鹿踊に重要なお面の白髪に使われるドロの木の植林を手伝いました。

ドロの木・植樹運動



2014年までに数千本の苗木を植えました。



ドロの木・植樹運動前、町内の鹿子踊全5団体が初めて一堂に会して
群舞を披露、新たな伝統のスタートを祝いました。
400年の歴史の中で初めて、5つの鹿子踊が一緒に踊りました。

このプロジェクトの目的は伝統を継続させ、将来に向けて地域の力を蓄えることです。
この活動を通じて、400年以來途絶えていた5つの市町村による共同鹿踊が初めて催されました。

Ökologische und ökonomische Erneuerung der Region
und zugleich Belebung und Bewahrung alter Traditionen

絆森プロジェクト

—ドイツの黒い森から日本の白い森へ—
絆・ベルリン
きずな守り
「絆森プロジェクト」



Kizuna-Wald-Projekt
(kan-nagara)
Doro-no-ki-Projekt



果樹園のイメージ写真
Landwirtschaft



山小屋のイメージ写真
Tourismus

文化的な側面だけでなく、経済的およびエコロジカルな面から見ても大事なプロジェクトです。
将来の緑のツーリズムの奨励につながります。

翼・プロジェクト



高校を訪問し、生徒たちと交流をしたときに、将来も地域に残り、復興のために役に立ちたいという声を彼らから聞きました。同時に一度は外国にも行って、見聞を広めたいという願いも聞きました。我々は日本のパートナーである遠野まごころネットと協力し、「翼プロジェクト」を立ち上げました。2013年から2017年の間に毎年夏に岩手県の高校生をベルリンに招待しました。

渡航費などはロベルト・ボッシュ財団のお世話になりました。我々の招待により、若者たちがドイツの若者、ドイツの歴史、ドイツの社会、さらに有意義な社会プロジェクトを知り、彼らに地域の将来の復興に役立たせてもらうことが目的でした。

2013年～2017年の「翼・プロジェクト」: 高校生たちのベルリンでの活動



生徒たちはベルリンでホームステイして、毎日のスケジュールに従って、同世代のドイツ人と市内の歴史ポイント、社会プロジェクトなどを訪問しました。

2013年～2017年の「翼・プロジェクト」: 高校生たちのベルリンでの活動



週末にワークキャンプがあり、日本語が流暢なドイツ人学生と様々なテーマについて議論をしました。そして、日本大使館では地域の復興状況について英語でプレゼンテーションをしました。ベルリンの消防署と国際技術支援機関を訪ね、彼らの活動について報告を受けました。

2017年の夏、5年間のつばさプログラムは終了してしまいましたが、我々はすべての参加者との接触を取り続けています。プロジェクトの目標と期待がどの程度満たされているかを把握するため、2018年の大規模なアンケートだけでなく、学生たちとの答弁や帰国後の報告書の結果を吟味しました。



学生たちからのフィードバックは非常に肯定的でした。特に、彼らは自信をたくさん持つことが出来るようになったと報告しています。多くの生徒が、特別な口頭審査(AO手続き)を通じて、大学に簡単にアクセスできるようになりました。彼らの多くは、ベルリンでのスピーチや演説での経験を報告して以来、他の国際プロジェクトへの参加に成功しています。最後になりましたが、多くの強固な友情が生まれていることは素晴らしいと思います。

宮古ゲストハウスプロジェクト3710



2018年に、絆・ベルリンは宮古ゲストハウスプロジェクトを寄付金で援助しました。
宮古に住んでいる若い人たちが旧館を買い、自らの手でゲストハウスに改装しました。
モットーは「観光・交流の拠点となるゲストハウスを作り、宮古・三陸を元気にしたい！」です。
翼・プロジェクトのメンバーも参加しています。

3月11日東日本大震災追悼・黙禱



忘れないのために、今まで毎年の3月11日には、追悼と黙禱及び講演又を行いました。2012年と2013年に大地震についての講演をいろいろなところでしました。2014から2018まで、在ドイツ日本大使館の前に集まり、黙禱と廻向を行いました。亡き人々を慕び、早く復興を祈りました。2019年にベルリン日独センターで復興の現状についての講演をしました。

2018年の定款変更による「Kizuna in Berlin e. V.」の活動地域の拡大

2016年4月の熊本地震などの日本における新たな自然災害を受けて、本法人は2018年の総会にて日本の全ての地域における自然災害の犠牲者への物質的および非物質的な援助をすることを決定する。よって定款は2018年8月に次のように変更された。

旧:

- (1) 本法人の目的は、2011年3月11日以降の日本における地震と津波によって被害を受けた人々への非物質的および物質的支援に焦点を当て、ドイツと日本の間の国際理解を促進する。
- (2) この目的は、特に岩手県、宮城県、福島県における被害の修復と再建のために本法人メンバーの活動を通じて達成される。また、文化施設や学校や幼稚園などの教育機関との交流を深め、両国の理解を深めていく。

新規:

- (1) 本法人の目的は、日本における自然災害により被害を受けた人々への非物質的かつ物質的な援助に焦点を当て、日独間の国際理解を促進することである。
- (2) この目的は、被災した県の被害と復興の現場における本法人のメンバーの活動を通じて達成される。また、文化施設や学校や幼稚園などの教育機関との交流を深め、両国の理解を深める。

2018年7月から西日本豪雨災害災害地も支援しました。

絆・ベルリンは豪雨直後に募金運動を始めて、プロジェクトを二つ経済的に援助しました。



二つには、豪雨で被災した学校へ楽器を寄付するプロジェクトでした。ベルリン独日協会(DJG)及び「クラシックを聴こう！」のFB・グループと絆ベルリンが協同して募金運動をしました。殊に、DJGの副会長の竹谷さんが5つにチャリティー・コンサートを行いました。全部で、ベルリンでは7000ユーロが集まりました。絆から約1000ユーロでした。2019年3月に、岡山県の倉敷市では、その寄付金から買ったグランドピアノを真備中学校に渡しました。

一つには、即座の行動を援助します。絆ベルリンの日本のパートナー「遠野まごころネット(TM N)」が岡山県に行き、現地で支援活動を始めました。

その現地でのボランティア活動を援助するために、振替で1500ユーロ(約14万円)の寄付金を送りました。



2019年と2020年の募金キャンペーン

大船渡では、2019年11月に実施した私たちの第9回ボランティア活動の一環として、NPO「大船渡コロリン」の活動を支援するために同NPOに60,000円の寄付をしました。大船渡コロリンは、さまざまな社会活動を通じて2011年の東日本大震災で被災した地域の復興に貢献し、大成功を収めています。



2019年には、大槌町の「風の電話」を題材にした映画が制作されました。「風の電話」は犠牲者の家族や友人知人の悲しみを慰めて、津波災害で残された方々を助けてきました。2011年に被害を受けた地域の小さな町での無料上映を可能にするため、2019年にはクラウドファンディングが行われ、「絆ベルリン」も36,000円の寄付で参加しました。同映画はベルリン国際映画祭2020年において国際初上映され、「名誉ある佳作賞」を受けました。

2020年7月には熊本市の洪水災害の犠牲者を対象とした募金キャンペーンを実施し、38,000円を集めました。竹谷氏のFilia GmbHとベルリン独日協会は3回慈善コンサートを開き、85,000円を頂きました。集計は熊本日独協会を經由して「熊本地域支援事務」に寄付し、洪水の被災者を支援しました。



2021年の募金キャンペーン

2021年7月の中旬に、日本は再び激しい豪雨に見舞われました。大雨の日は熱海で地滑りを引き起こし、130戸の家屋が破壊され、23人が死亡した。 2021年7月に42,000円の募金活動を行い、土砂崩れの被害者を支援するため、「熱海災害救援」に直ちに寄付しました。



受領証

領収日	令和3年7月19日
金額	金 42,000 円

但し、熱海市災害義援金として
上記の金額を受領しました。

Stonzer Zeile25,12209 Berlin, Germany

Kizuna Berlin 様

熱海市会計管理者 角田 美佐子



残念ながら、2021年に計画された「岩手県からベルリンへの若者を招待する」という日独プロジェクトは、Covid-19のパンデミックのためにキャンセルされなければなりませんでした。

2月の中旬に「絆・ベルリン」の年次総会で、岩手県からの若者を招待するプロジェクトを全会一致で決定しました。津波の大惨事から10年後、2021年の夏にはボランティア活動(復興プロジェクトか社会プロジェクトなど)に従事していた6若者を8日間岩手県からベルリンに招待することが予定されました。「翼・プロジェクト」のように、NPO「遠野まごころネット(TMN)」が私達の日本のプロジェクトパートナーで予定されていました。

2020年3月初めに「ベルリン・独日協会」にプロジェクトを明細に説明し、「独日協会連合会の財団」からの財政支援を所定の様式で願書を提出しました。そして、在ベルリンの宿泊に関し、コンベンションセンターを2021年7に前もって予約することができました。

プロジェクトの準備よくしつつありましたが、残念ながら新型コロナウイルスのパンデミックはそのとき始めました。

私たちがまず楽天的でした。パンデミックがまもなく終わることが私たちの願いでしたが、だんだん状態がますます悪化しました。

こうした事情から、私たちが重い心で5月に財政援助の要請を撤回しなければなりませんでした。沢山の不測の問題のために、プロジェクトがあいにくながら実行可能ありません。

2022年の募金キャンペーン

2022年には、沿岸部の小学生向けに、大槌町と戸田林市が行う絵本や読み聞かせプロジェクトを募金活動で支援しました。

2011年の津波の後に、大槌町の瓦礫で見つかった稲株を、遠野まごころネットが中心となり復興のシンボルとして育ててきました。

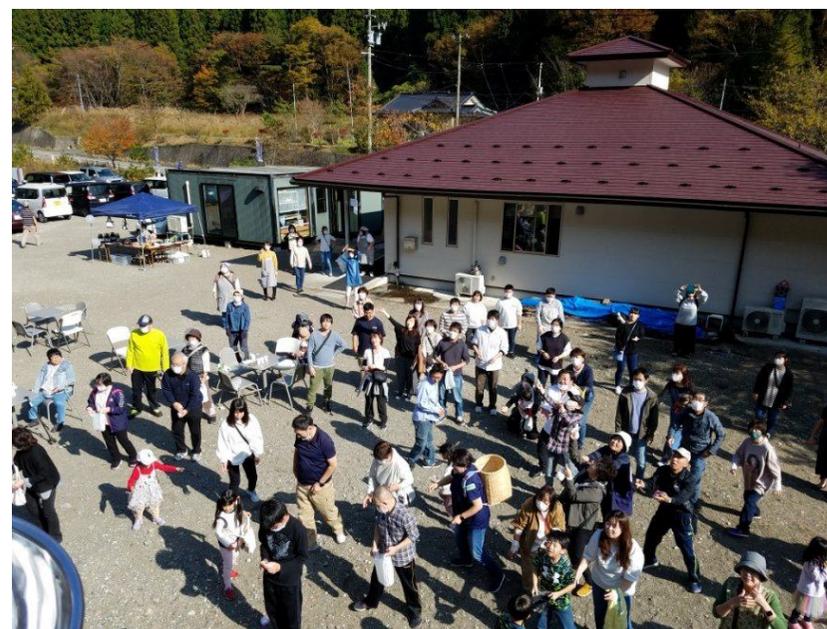
その稲が、現在では大阪府富田林市の小学校や市民の協力で「奇跡の復興米」として大槌町と富田林市の友好を深めています。



震災を忘れないように、また、津波で大変だったこと、大勢のボランティアによって復興米が実ったことを伝えるために、遠野まごころネットがそのことを紙芝居 (picture-card show) と絵本にし、大槌町、沿岸被災地、富田林市の小学校にプレゼントする予定です。

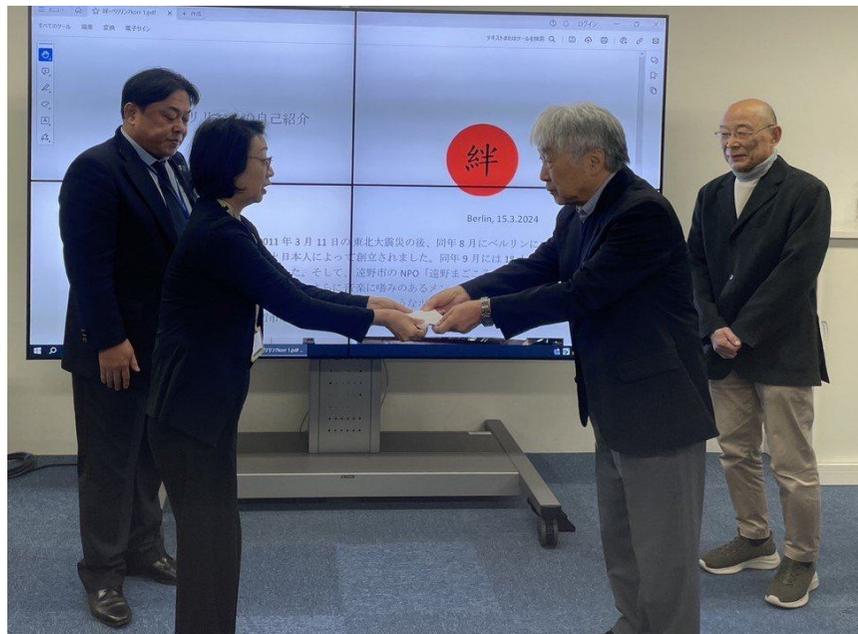
2023年の募金キャンペーン

2023年にはNPO法人遠野まごころネットが主催する、大槌や釜石等に住む障害のある方の文化祭に協賛しました。会場は「まごころネット釜石助け合いセンター」前広場でした。復興地域の障害者への公的支援が不足しているため、絆はこのイベントを募金活動を通して支援しました。遠野まごころネットから、とても素晴らしいイベントで、訪れた人も皆感動していたと報告を受けています。



2024年1月1日に石川県能登半島で発生した地震災害の被災者への緊急支援

2024年初頭の地震は、最大マグニチュード 7.6の揺れを記録し、特に石川県能登半島に甚大な被害をもたらしました。
海岸線は一部移動し、海岸地域は数メートル隆起しました。
輪島市、能登市、珠洲市ではひどい被害が報告されました。
合計で少なくとも232人が死亡し、数万人が避難を余儀なくされました。



「絆・ベルリン」は地震の発生直後に募金活動を開始し、3,200 ユーロ (約50 万円) が集まりました。

この寄付金は、3月に福井県庁の三田村氏に、絆・ベルリンの副会長の福澤から手渡されました。
福井県と新潟県は、石川県の隣県として能登半島の救援活動を支援・調整し、被災者への義援金の送付を行なっています。

能登半島の地元の工芸品を応援する募金活動

2024年1月1日に発生した大地震により、伝統工芸品で知られる輪島市や珠洲市などに広範囲にわたる被害が発生しました。

伝統工芸の工房も甚大な被害を受けたため、「茶道裏千家淡交会ベルリン協会」は「絆・ベルリン」と協力し、2024年8月24日にフンボルト・フォーラムのアジア美術館で「美術館の長い夜2024」の一環として茶道を催し、被災した職人たちを支援するための寄付を募りました。



集まった合計2800ユーロの寄付金は、2024年秋にNPO法人趣都金澤に渡され、そのNPOから被災した職人たちに送られる予定です。

絆・ベルリンの今後の活動の展望



震災から14年が経過し、福島第一原子力発電所周辺の放射能汚染された地域を除いて、被災地の再建は目に見える形で進展しました。もう、仮設住宅に住まなければならない人もほとんどいません。インフラが大幅に回復し、どの地域でも新しい家が建設されていますが、震災によって人々が負った心の傷が癒されるまでには、まだ時間がかかるかと思えます。したがって今後の最優先事項は、コミュニティーの再生とソーシャル・ネットワークの確立です。

私たちはこれからも、様々な復興プロジェクトを通して、日本のパートナーを支援していく予定です。そのため、被災地域の人々と皆様との交流が、今後さらに盛んになれば嬉しく思います。

私たちの活動が、国家間の友好の橋を強化し、都市の活性化に貢献することを願っています。